

11/5
 2013年第1154号
 (毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
 敬 志岐 敬
 発行人 志岐 敬
 大阪府浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可



食育で心と体の健康をつくることを呼びかけた市民講座。右が岡崎好秀氏=10月20日、M&Dホール

保険でよい歯科診療を
 大阪連絡会

食育で豊かな心を

市民講座で岡崎好秀氏が講演

「歯や「食」の大切さを学ぶ市民講座が10月20日、M&Dホールで開かれた。「クイズで語るおもしろい食育最前線」をテーマに、元岡山大学病院小児歯科講師の岡崎好秀氏が講演。「楽しい食事で心と体の健康を育てよう」と呼びかけ、家庭や社会の在り方を探った。

もの存在を挙げ、「犯罪が寂しさに起因する可能性もある」と説明。「今の食育は栄養学に偏っている。食事学にも目を向けるべき」と語り、楽しく食べることで心と体を育む必要性を訴えた。また、「汚水を飲めばコレラ。飲まねば熱中症」

の「折クイズを出題。人間が本来持つ抗菌作用に着目し、「噛むことで唾液と共に胃から酸が出て消化、殺菌できる」と咀嚼の役割を解説。食べ物の栄養価だけにとらわれるのではなく、自分の身を守る食べ方として一口30回噛むことを促した。講座には、歯科医療関係者や市民ら130人が参加。主催した「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」から「保険で良い歯科」署名への協力と、大阪連絡会への参加の訴えがあった。

岡崎氏は、最初に「重度のむし歯を抱えた子どもがたくさんいる場所はどこか」と参加者に問いかけた。少年院であること、少年院で「むし歯の背景には家庭環境の問題がある」と指摘。少年院の子ども7割に虐待経験があることを紹介し、「少年犯罪の原因がすべて子どもにあると言えるのか。社会の問題として捉える必要がある」と強調した。一人で食事を摂る子ども

新パンフを発行



「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」は6月に開いた市民講座の講演録のパンフレットを発行した。協会は、今号に同封して会員に届け、希望者には50部まで無料で配布する。注文は事務局まで。

患者紹介ビジネス 規制へ

厚労省、診療報酬と療担改正で

厚生労働省は23日の中医協総会で「患者紹介ビジネス」への対策を明らかにした。療養担当規則や在宅患者訪問診療料の改正で規制する方針。厚労省は紹介ビジネスについて、医療機関の選択の制限や過剰な診療につながる場合は、健康保険法の趣旨からみて不適切」としたものの、医療機関が「紹介料を支払うこと自体は、違法とは言えない」と説明。その上で、療養担当規則の改正で紹介料の支払いを禁止することを提案した。

在宅患者訪問診療料に療報酬改定での対応を求めている。ただ、同日は明と同意を含め、一定の診療内容による整理が必要と考える」と指摘。診

今号同封 会員署名にご協力を

協会は来年度の予算編成に向け、①70~74歳の窓口負担1割継続②診療報酬の引き上げ——を求め、会員の5割を目標に11月下旬に集約し、会員の声を持って国会議員に要請します。署名用紙は今号同封。ご協力をお願いします。

新年号への投稿を募集

12月7日締め切り

新聞部は機関紙新年号への会員投稿を募集している。原稿のテーマは、①趣味②日常臨床③新年に思うこと④エッセイや俳句⑤旅行記⑥干支馬に関すること——など。700字以内。写真は、新年や冬にまつわる風景・人物・家族写真など。メール akira_kn@osk-net.or.jp

世界中で米国の戦争に参加

を行使する領域を地球規模にまで(つまり地球の裏側まで)拡大したことだ。

とここで、第一次安倍内閣で設置された有識者会議「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」の報告書(2008年6月24日)は集団的自衛権行使を強引に認めていたが、その際に例として挙げているのは2類型。

だが、第1類型の「共同訓練等の公海における米軍艦艇の防護は、自衛隊が攻撃されず米軍艦艇が攻撃されることを前提にして



防衛省ホームページから

また、第2類型の「米国に向かうかもしれない弾道ミサイルの迎撃」は、日本政府の答弁書でも「技術的に極めて困難」と断定しているし、また、集団的自衛権行使の前提であるアメリカの日本への協力要請を待っていたのでは日本への迎撃は時間的にも不可能である。

つまり、有識者会議の報告書は非現実的なことを例にして集団的自衛権行使を許容しているのだ。その上、約4年7カ月ぶりに再

サービス版以上四つ切り以下。

応募は、郵便やファクス(写真除く)、メールで新聞部まで。原稿は顔写真を同封。締め切り12月7日必着。ファクス06-6568-0564/メール akira_kn@osk-net.or.jp

「格差社会だからだろう」とは正解に近い。だが、格差は非正規社員と一緒に社会に定着してしまっただけで、日本の高度成長期を支えたのは多数派の中間層だった。

格差社会も自身が進化する。多数の金持ちと多数の貧乏から、大多数の大金持ちと大多数の大貧乏者の社会構造になってきた。中間層が減って、勝ち組だけが文明社会の恩恵を受け、株を支える。

今、弱肉強食が相互扶助のかわりに岐路にある。

歯界

アメリカのデフォルト騒ぎはハリウッド映画のハラハラドキドキ物とそっくりの見せ場をつくった。まだ来年2月に、もう一波乱をアロトトしてあるようだ。世界経済の終わりと大騒ぎしている割に株価は堅調である。日本も消費税の増額で庶民生活はさらに落ち込むのに、世間は一見好景気みたいで、安倍内閣の支持率も高い。「なぜだろう?」とワイドショーの識者たちもひね壇の上で首をひねっている。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)